

静岡県 令和5年度 ケアマネジメント業務AI導入支援事業

業務実施報告書

令和6年3月19日
株式会社シーディーアイ

アジェンダ

1) 事業概要

2) SOIN概要

3) アンケート結果分析

4-1) 牧之原市における合同勉強会の取り組み

4-2) 伊豆の国市長岡包括支援センターの活用事例

5) 総括及び今後の課題

1) 事業概要

1-1 事業概要

【事業の趣旨・目的】

居宅介護支援事業所等におけるケアプラン作成支援のためのAI(人工知能)システムの導入及び活用を促進し、より質の高いケアプランを作成できる介護支援専門員を育成するとともに、ケアマネジメント業務の効率化を図る。

実証参加自治体	牧之原市、伊豆の国市
参加事業所数	30事業所
参加ケアマネジャー数	38名(ケアマネジャー以外2名) ※市職員2名にもアカウント発行(計40アカウント発行)
委託事業者/ 使用システム	株式会社シーディーアイ / SOIN <small>そわん</small>

事業プロセス



1-2 実施スケジュール

日付	実施内容	備考
令和5年8月4日	牧之原市、伊豆の国市に参加希望調査票の提出	
9月4日	SOIN AIシステム利用開始	38アカウント
9月7日	牧之原市SOIN操作説明会を開催	7事業所9名参加
9月13日	伊豆の国市SOIN操作説明会を開催	12事業所15名参加
9月26日	AI使用前アンケートを配布	詳細は別ページ記載
11月2日	牧之原市利活用セミナー実施	7事業所25名参加
11月29日	伊豆の国市利活用セミナー実施	12事業所15名参加
令和6年1月18日	AI使用后アンケート配布	詳細は別ページ記載
2月21日	牧之原市報告会	10事業所23名参加
2月26日	伊豆の国市報告会	13事業所21名参加
2月29日	SOINサービス利用終了	
3月19日	事業完了	

2) SOIN概要

1

利用者情報

基本生活

身体精神



基本ケア/疾患別ケア選択

認定調査の項目を中心に
5～10分程度で入力できます

3

サービス

AIが提案するサービスプランを参考に
サービスプランを作成します

2

分析

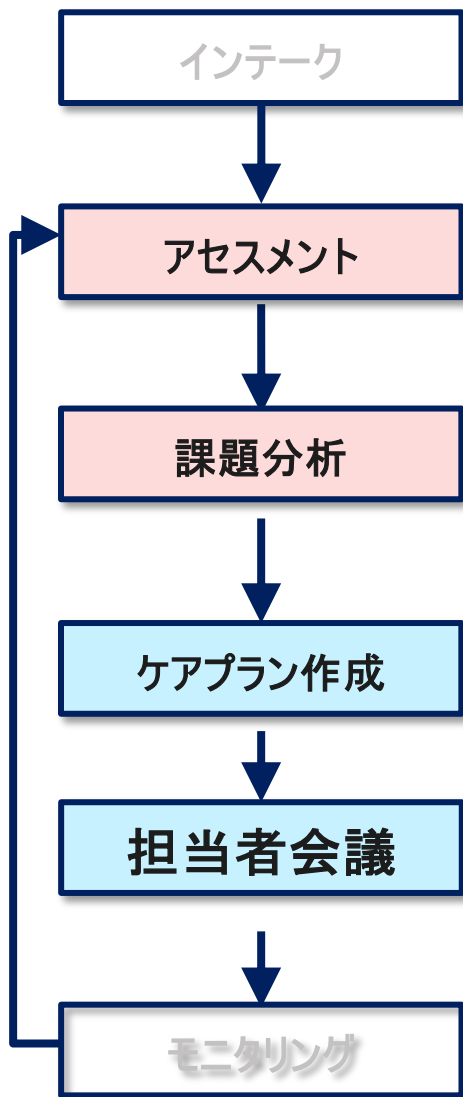
「分析する」ボタンで、ほぼ瞬時に
分析結果や支援内容が表示されます



4

比較

サービスプランの改善と維持の
確率を図で比較できます

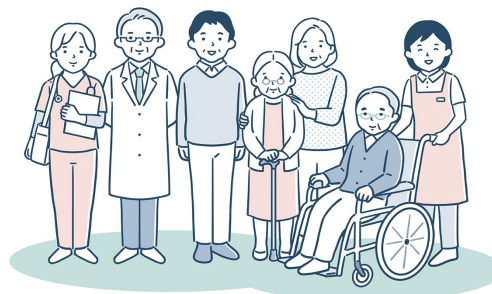


SOIN そわん
がサポート

ケアプラン提案へ



根拠のある
具体的な説明

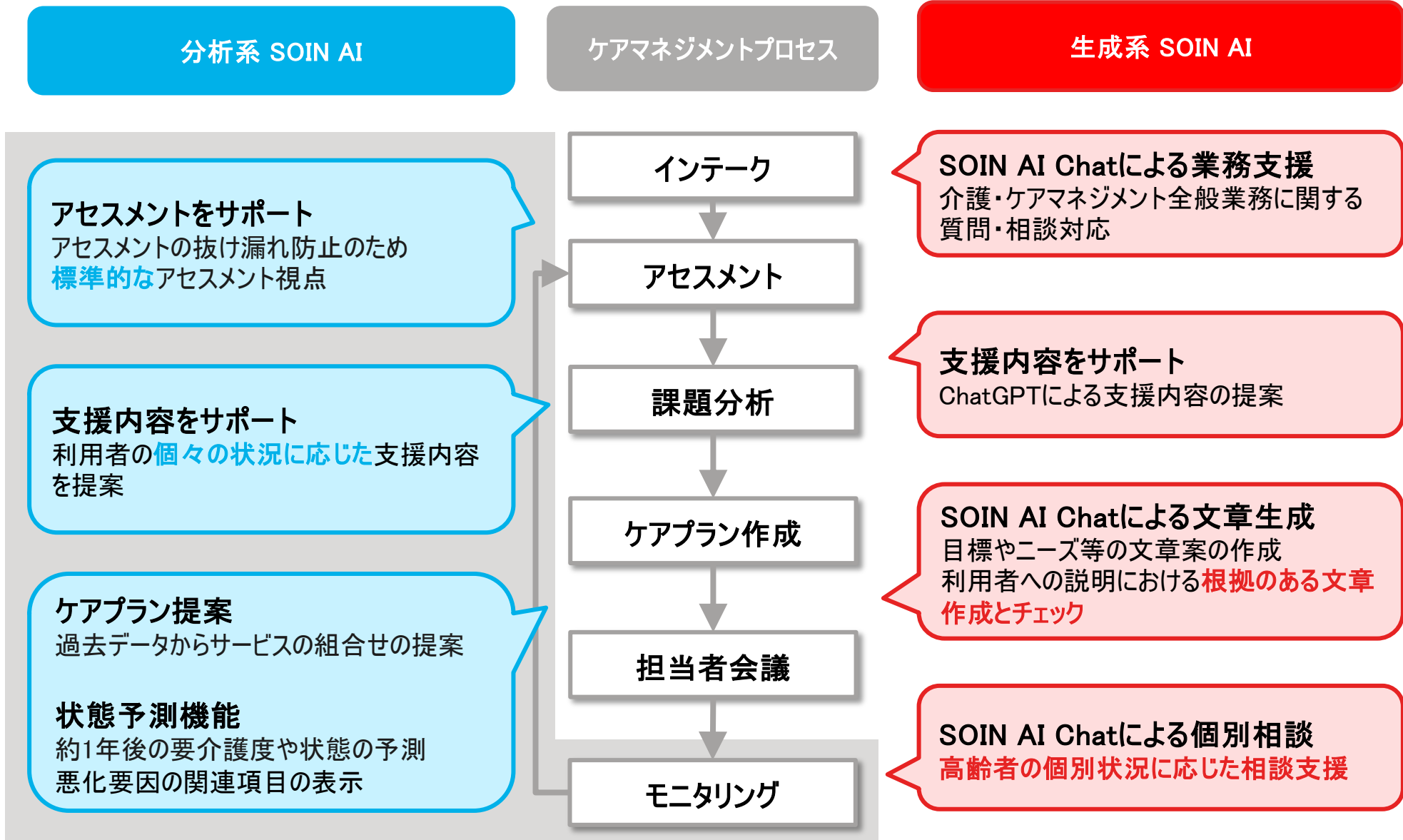


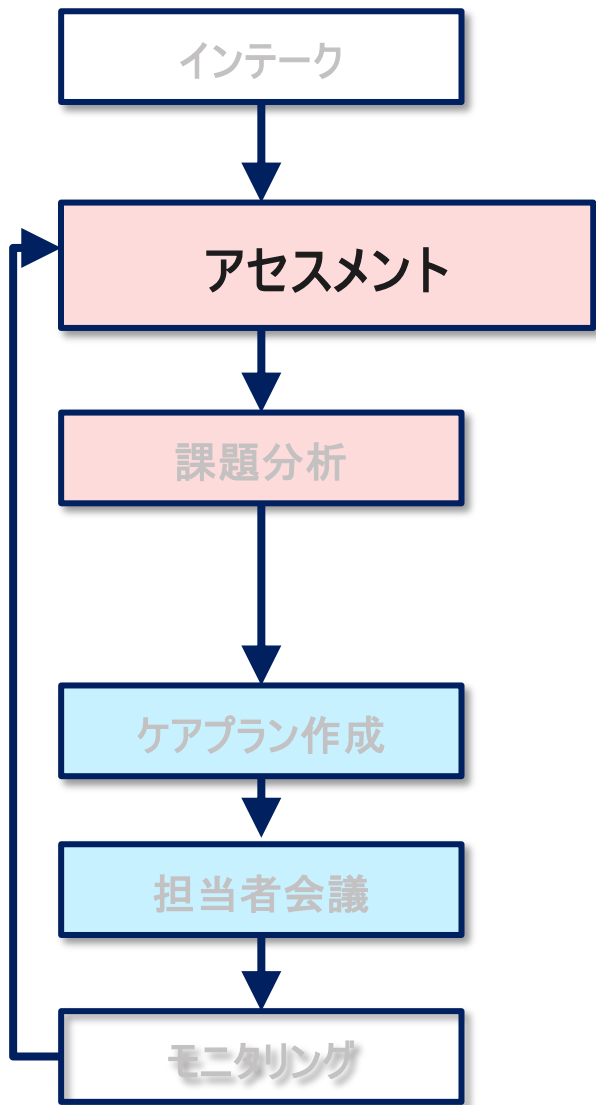
方針、目標、
状態像の理解
と共有化へ



ご利用者・
ご家族の納得感
や取り組みへの
意欲へ

ケアマネジメントプロセスにおけるSOIN各機能の位置づけ





「疾患情報」「状態の悪化を防止したい項目」を選択

アセスメント項目をカテゴリ別に表示

分析 1 : 疾患 (認知症) に関する分析

疾患に関するアセスメント

日常生活の支援

- 水分・塩分量に対する
- 食事における飲み込
- 食事の調理者や食事
- 食事に関する医師や
- 本人の食の好みやこ
- 口腔機能 (嚥下機能、
- 口腔ケアの状況 (自

分析 2 : あなたが選んだ項目に関する分析

悪化防止を図りたい項目 (あなたが選択した項目: 歩行)

歩行が現在物や壁など
す。また、要介護1の方
できていません。歩行の
と効果的です。例えば、
きたりすると良い影響を
大切です。したがって

分析 3 : AIが選んだ項目に関する分析

改善が期待できる項目 (AIが選択した項目: 入浴)

入浴が現在全介助ですが、おおよそ4割の確率で、今後改

「AIが同様の事例で、維持または改善が期待できると判断した項目」に関する分析結果も表示

適切なケアマネジメント手法について



一人ひとりの介護支援専門員によるケアマネジメントの質のばらつきが大きくなっているとの指摘がある。

介護支援専門員が一人で全ての領域の知見を身につけるのは現実的ではない。

「適切なケアマネジメント手法」はまさにその基本的な知識として作られたものであり、他の職種と連携する際の“共通言語”として活用する。

出典:「適切なケアマネジメント手法」の手引きより筆者要約

介護はもちろん医療や福祉、さまざまな生活支援サービス領域の知見やネットワークが必要となっている。

コラム 「ケアプランの標準化」ではない

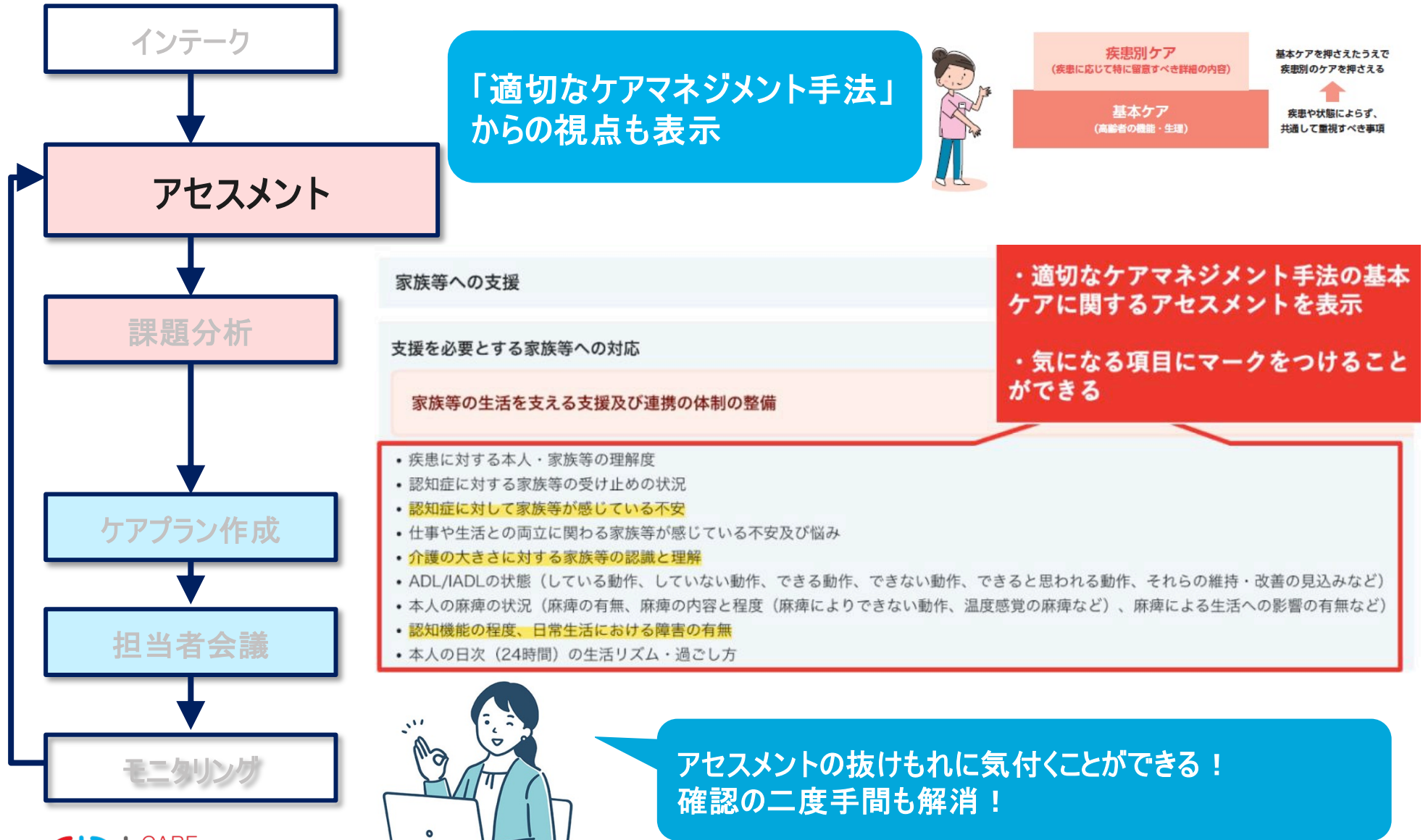
本人のニーズや具体的な支援内容はきわめて多様・多彩であるため、ケアプランは一人ひとりに個別的なものです。

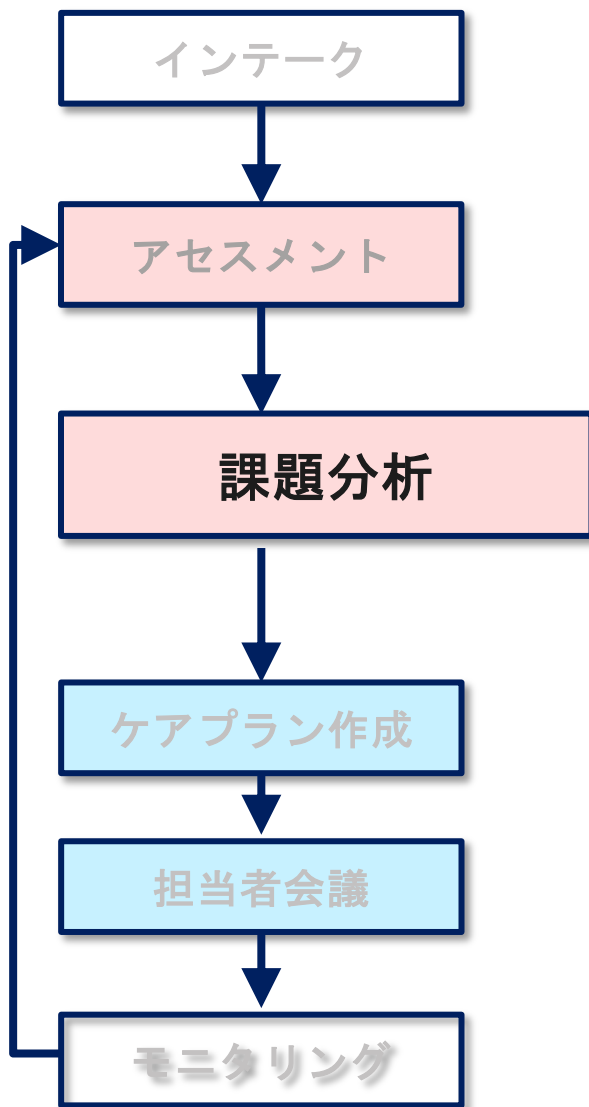
「適切なケアマネジメント手法」が目指しているのは、どの介護支援専門員が担当しても、本人から見て一定の水準のケアマネジメントを提供できるようになることであり、そのために仮説を持って情報収集・分析できるようになることを目指しています。決して「ケアプランの標準化」ではありません。

個性の高いケアプランを作りやすくなる



適切なケアマネジメント手法が土台となることで……





ポイントとなる項目についての具体的な支援内容を提案

状態改善の可能性が高い
ケアプランの提案

2.支援内容

食事摂取の維持におすすめの支援内容

- **食事環境の支援**（食べる姿勢の調整やきざむ大きさなどを考慮し、食事が楽にできる環境を設定する）
- **誤嚥の予防**（むせやすいため、とろみ食の検討や食事内容の指導を行う）
- **栄養バランスを考慮した食事の支援**（塩分量やカロリー計算など栄養管理を行う）

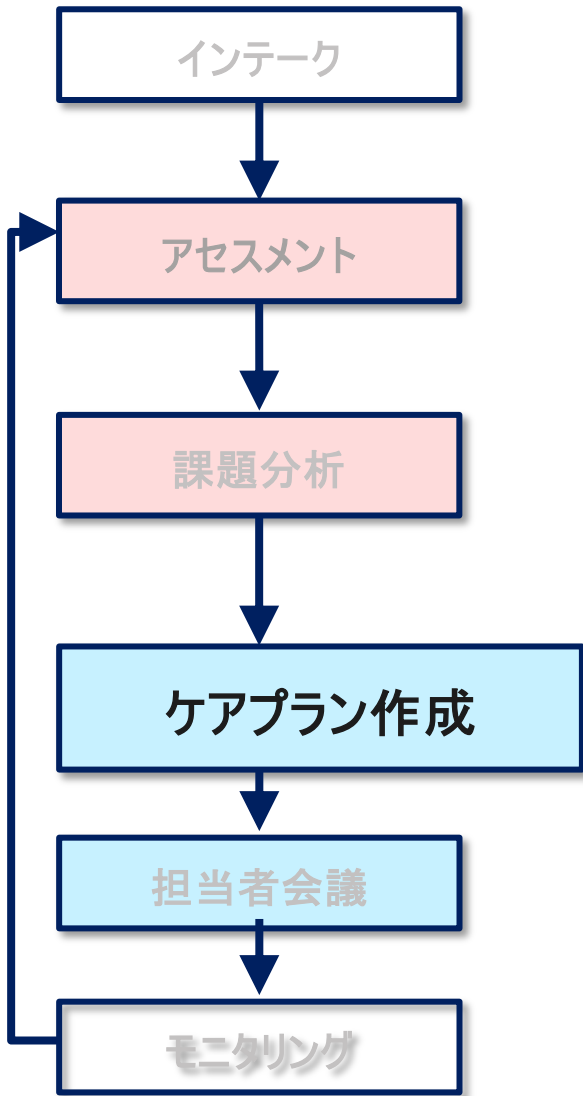
歩行の改善におすすめの支援内容

- **移乗・移動の支援**（非麻痺側から移乗を行える環境づくりを行う（ベッド、トイレ、入浴等））
- **改善の支援**（福祉用具の活用やリハビリテーションを通じて、歩行機能の回復の可能性を探る）
- **下肢筋力の維持**（歩行が難しい場合、定期的に立ち上がりの機会を作り、下肢筋力の維持を図る）



長期・短期目標の設定や文章表現、
サービス選択の参考にできる！

ケアプラン文章表現の参考にも！



第1表 居宅サービス計画書(1)

利用書名 _____ 殿 生年月日 年 月 日 住所 _____

居宅サービス計画作成者氏名 _____

居宅介護支援事業者・事業所名及び所在地 _____

居宅サービス計画作成(変更)日 年 月 日 初回居宅サービス計画作成日 年 月 日

認定日 年 月 日 認定の有効期間 年 月 日 ~ 年 月 日

要介護状態区分	要介護1	要介護2	要介護3	要介護4	要介護5
利用者及び家族の生活に対する意向を踏まえた課題分析の結果					
介護認定審査会の意見及びサービスの種類の指定					
総合的な援助の方針	総合的な援助の方針				
生活援助中心型の算定理由	1.一人暮らし 2.家族等が障害、疾病等 3.その他()				



SOIN AI Chatによる文章生成
目標やニーズ等の文章案の作成



第2表 居宅サービス計画書(2)

利用者名 _____ 殿 作成年月日 年 月 日

生活全般の解決すべき課題(ニーズ)	目標				援助内容				
	長期目標	(期間)	短期目標	(期間)	サービス内容※1	サービス種別	※2	頻度	期間
	ココ!		ココ!						

3) 使用前・使用後アンケート結果分析

アンケート分析について

3-1 アンケート実施概要

3-2 参加者属性

3-3 SOIN利用状況

3-4 ケアマネジメント全般について

3-5 アセスメントについて

3-6 ケアプラン作成について

3-7 新人の教育について

3-8 総合的な効果について

3-1 アンケート実施概要①

(1) 調査目的	令和5年度「ケアマネジメント業務AI導入支援事業」の効果検証として、AIケアマネジメント支援システム「SOIN(そわん)」を使用する前後でアンケート調査を実施し、その差異を分析することにより、その効果を検証することとした。
(2) 調査対象	本事業に参加した県内居宅介護支援事業所のケアマネジャー
(3) 調査対象数	38人(30事業所)
(4) 有効回答数	事前アンケート:38人 事後アンケート:38人
(5) 回答率	事前アンケート:100% 事後アンケート:100%

3-1 アンケート実施概要②

アンケート項目一覧(大項目)

AI使用前アンケート

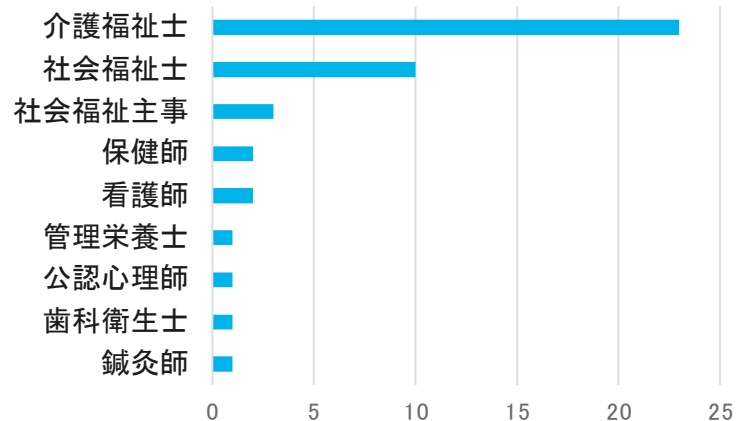
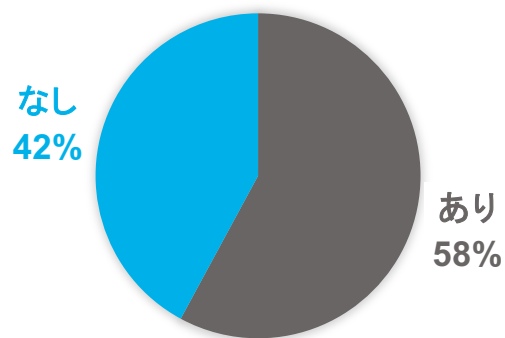
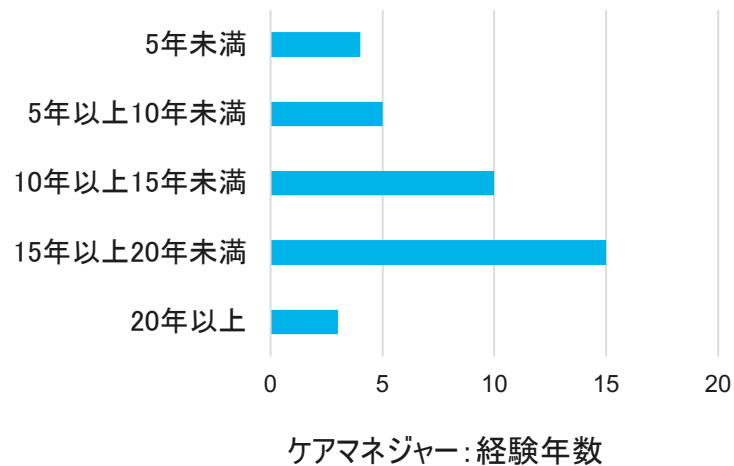
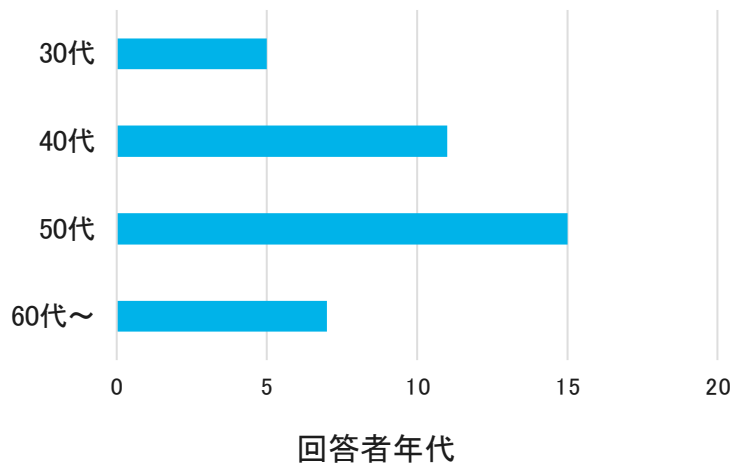
- 1、自身のケアマネジメント業務について(全般)
- 2、アセスメント業務について
- 3、ケアプラン作成について
- 4、担当者会議について
- 5、新人のケアマネジャー教育について
- 6、AIについて

AI使用后アンケート

- 1、SOIN利用実績
- 2、ご自身のケアマネジメント業務について(全般)
- 3、アセスメント業務について
- 4、ケアプラン作成について
- 5、SOIN利用による変化につて
- 6、担当者会議やサービスの調整について
- 7、新人のケアマネジャー教育について
- 8、AIについて

3-2 参加者属性

① アンケート回答者について



主任介護支援専門員資格有無

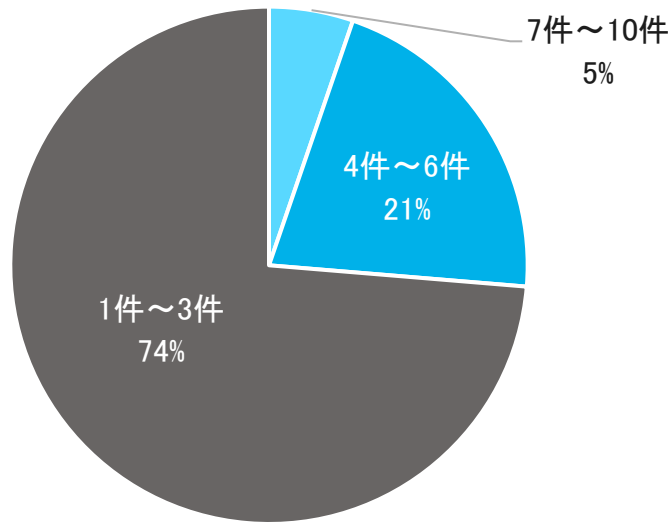
介護支援専門員以外の保有資格: 複数回答

3-3 ケアマネジメント全般について(利用件数)

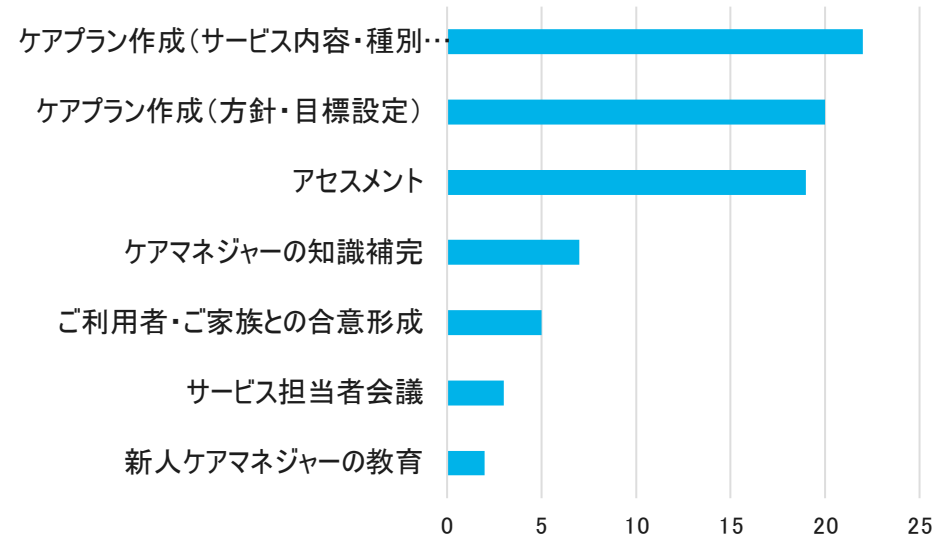
②SOINの活用件数と利用場面

実証期間が6ヶ月であったことから、利用件数が1～3件が最も多かったが、「7～10件」利用しているケースもあった。全体での平均値は2.6件であり、1ヶ月に16.7件利用された。

利用場面に関しては、ケアプラン作成とアセスメントで利用されたケースが多く、**ケアプランの方向性を検討する際に利用された**ことがわかる。



SOINを利用したケースは何件ですか？

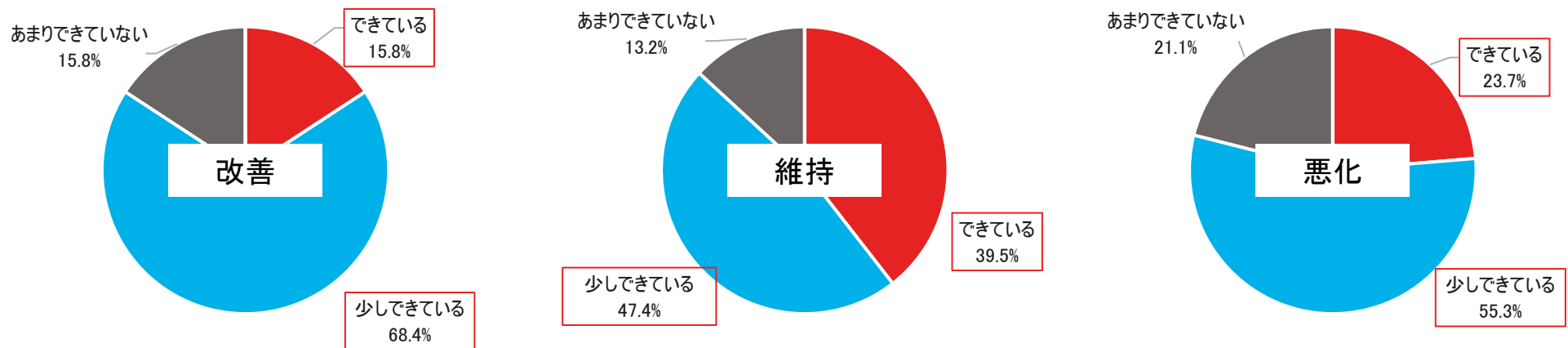


どの場面でSOINを使いましたか？(複数回答)

3-4 ケアマネジメント全般について①

ケアマネジメント業務を行う際に、ご利用者の将来像について、改善・維持・悪化のどこをポイントにケアマネジメントを行なっているかを確認したものの。

いずれも約8割程度が「できている」「少しできている」との回答であったが、「維持」に着目している割合が他と比べて若干多いことに加え、「できている」と回答した割合が39.5%と最も多く、**状態の維持に重点を置いている**ことが確認できる。

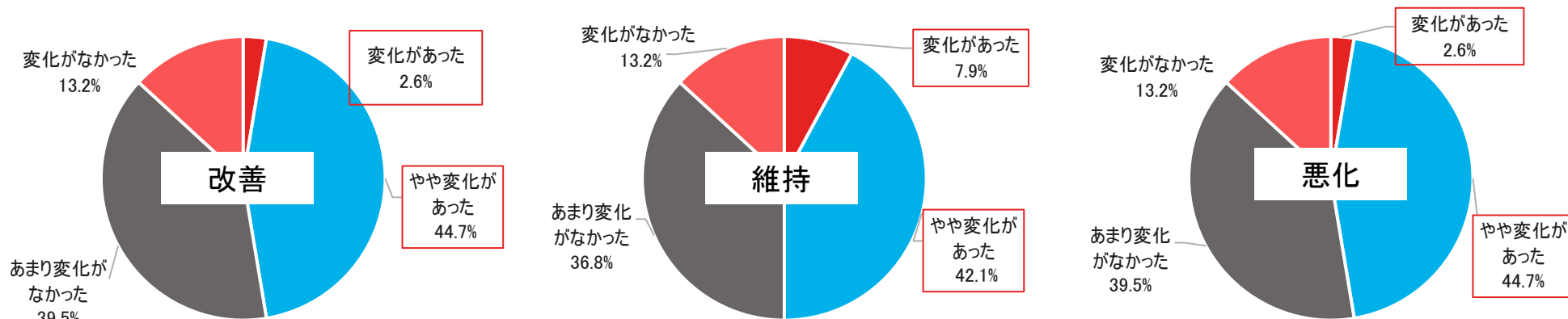


ご利用者のADL・心身機能の「改善・維持・悪化の可能性」を意識したケアマネジメントが十分にできていると思いますか。

3-4 ケアマネジメント全般について②

ケアマネジメント業務を行う際に、AI使用前と比べて、ご利用者の将来像について、改善・維持・悪化のそれぞれに対する意識変化、特に「良い変化があったか」について確認したものを。

「改善の可能性」に対して「変化があった」「やや変化があった」と回答したケアマネジャーは47.3%、同様に「維持」は50.0%、同様に「悪化」は47.3%という結果になっており、約半数の方がAIを使用したことにより**良い変化を感じた**ことが確認できる。



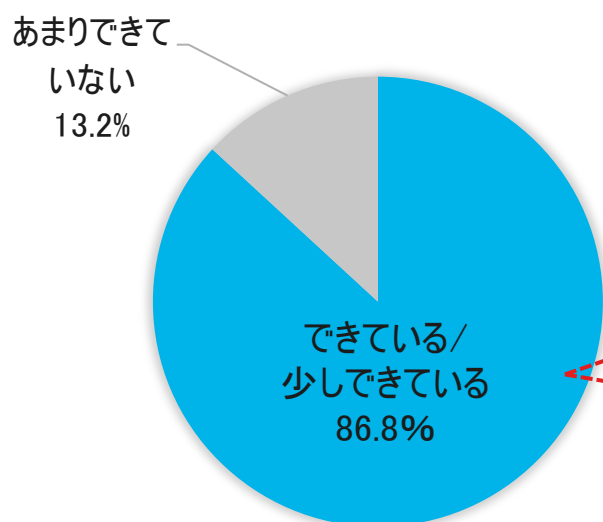
ご利用者のADL・心身機能の「改善、維持、悪化の可能性」を意識したケアマネジメント業務に「良い変化」があったと思いますか？

3-4 ケアマネジメント全般について③

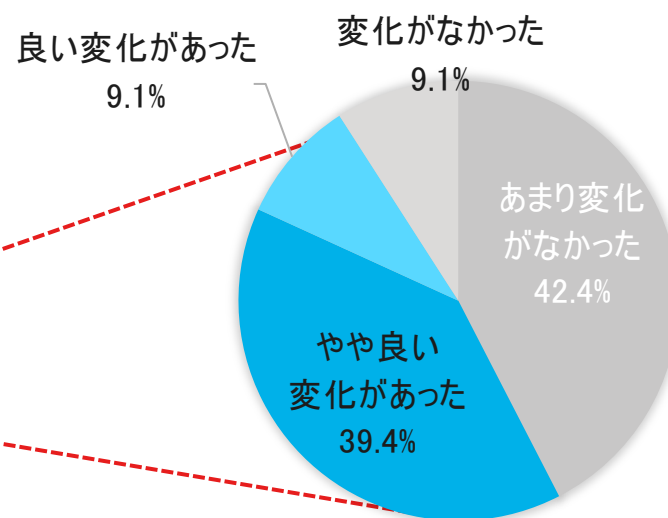
一般にケアマネジャーが重点をおいていると思われる「維持」の将来像を意識したケアマネジメントが「できている」「少しできている」と回答した参加者を例に挙げて、その詳細を検証した。

「維持」の将来像を意識したケアマネジメントができていると回答した86.8%のケアマネジャーのうち、AI利用後に「良い変化があった」「やや良い変化があった」と回答した参加者は48.5%との結果であった。

これらのことから、もともと高い意識を持って取り組んでいるケアマネジャーにとっても、**AIを活用することにより、今までにない気づきや新たな視点が生まれた**ことが確認できる。



ご利用者のADL・心身機能の「維持」を意識したケアマネジメントが十分にできていると思いますか。



ご利用者のADL・心身機能の「維持」を意識したケアマネジメント業務に「良い変化」があったと思いますか？

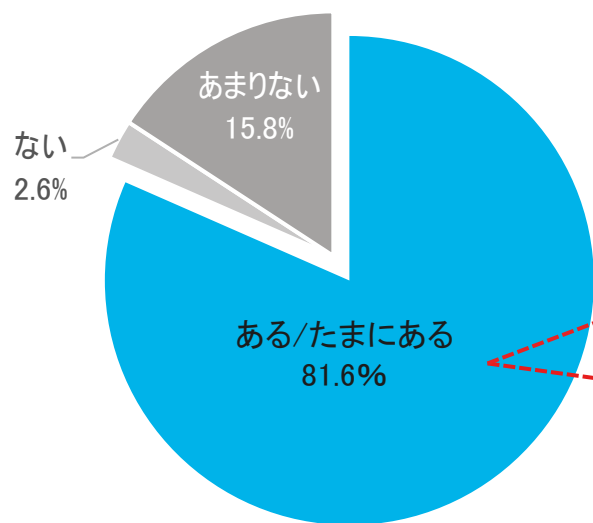
3-5 アセスメントについて①

アセスメント時の、聞きモレや視点不足に変化があるか確認したもの。

事前アンケートでは81.6%の参加者が「ある」「たまにある」との回答であり、聞きモレや視点不足があると感じられていた参加者が多いことがわかる。

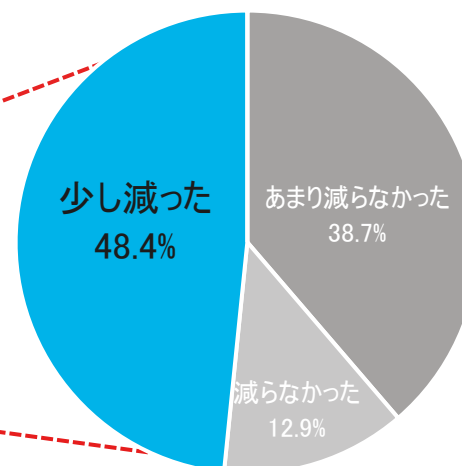
これに対し、使用前に「ある」「たまにある」と答えた参加者のうち、「少し減った」との回答が48.4%あり、アセスメント時の聞きモレや視点不足の削減による、**業務品質向上及び業務効率化の効果が確認できる。**

AI使用前



お一人のご利用者のアセスメント(情報収集)のときに、
聞きモレや視点不足がありますか？

AI使用后



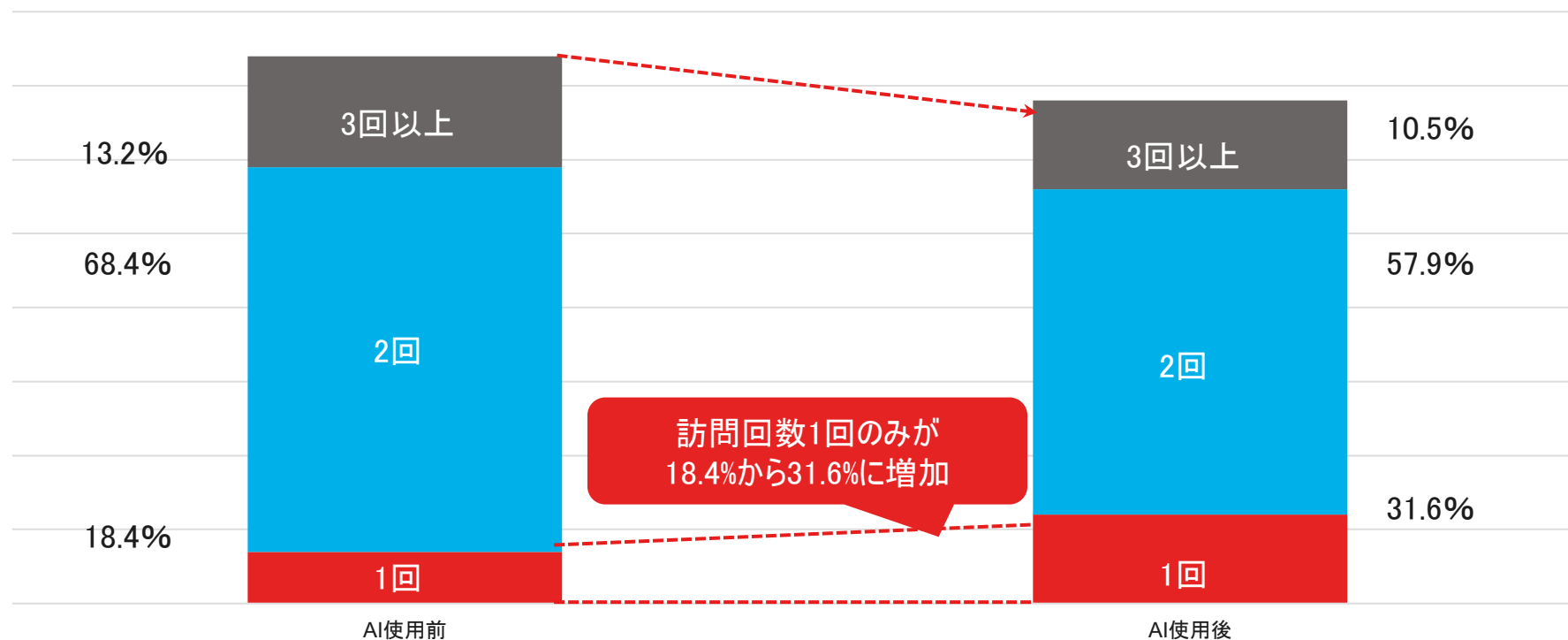
お一人のご利用者のアセスメント(情報収集)のときに、
聞きモレや視点不足は減りましたか？

3-5 アセスメントについて②

アセスメント時の訪問回数の変化を確認したもの。

AI使用前に比べて全体的に訪問回数が減っており、AI使用が聞きモレ防止や効率的なアセスメントに寄与していることが確認できる。

お一人のご利用者当たり何回くらい訪問されますか。



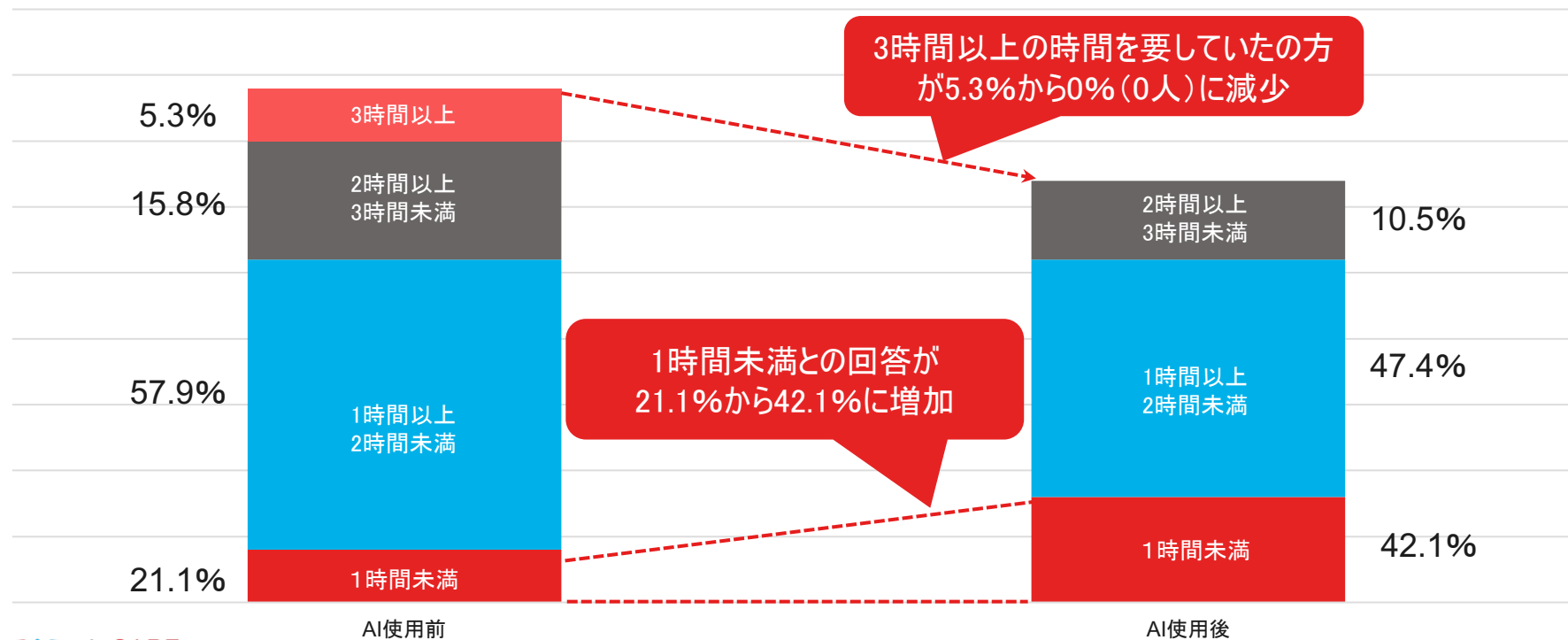
3-5 アセスメントについて③

課題分析時に要する時間の変化を確認したもの。

AI使用前後で課題分析に要する時間を比較したところ、AI使用後では課題分析に要する時間が減少していることが確認できる。特に、使用前では「3時間以上」とい参加者が使用後にはいなくなったとともに、「1時間未満」と回答した参加者がほぼ倍に増加している。

アセスメント(課題分析)にかかる時間短縮に大きな効果があったことが確認できる。

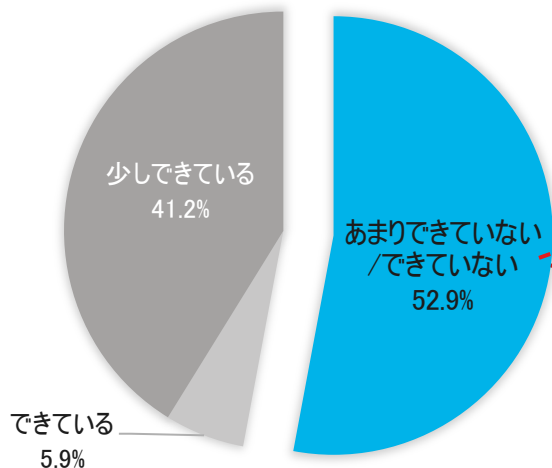
お一人のご利用者のアセスメント(課題分析)に、平均どれくらい時間を要しましたか？



3-5 アセスメントについて④

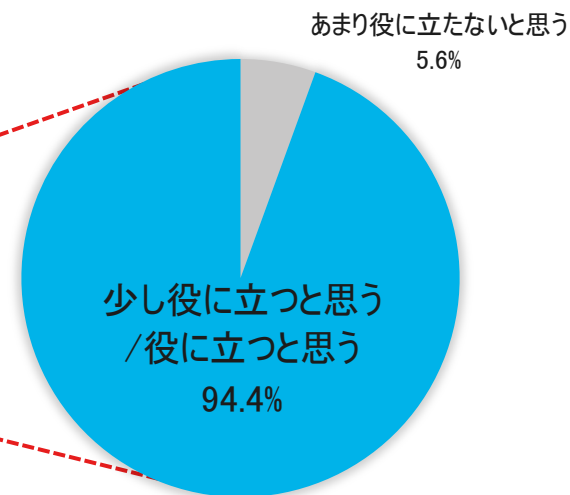
AI使用前に「できていない」「あまりできていない」との回答あった52.9%の方がSOIN使用後の、『適切なケアマネジメント手法』に沿ったケアマネジメントをする上で、SOINは、役に立つと思いますか？という質問に対して、「役に立つと思う」「少し役に立つと思う」との回答が、94.4%となり、適切なケアマネジメント手法の活用には効果的であると推察される。

AI使用前



ご自身のケアマネジメントは、『適切なケアマネジメント手法』に準じて行われていると思いますか。

AI使用後



適切なケアマネジメント手法』に沿ったケアマネジメントをする上で、SOINは、役に立つと思いますか？

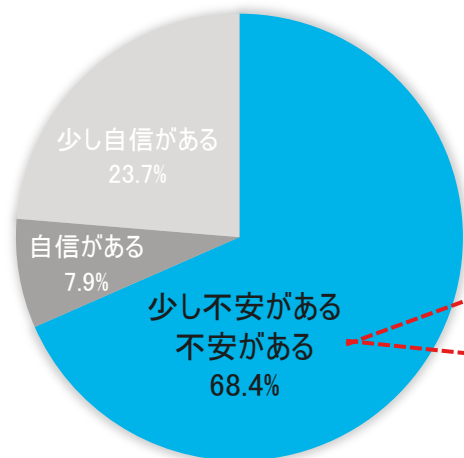
3-6 ケアプラン作成について

作成しているケアプランが「自立支援・重度化防止」になっているという自信に繋がったか確認したもの

AI使用前に自身が作成しているケアプランに自信があるかという質問に対して、「不安がある」「少し不安がある」との回答が68.4%と、自分のケアプランに不安を感じている参加者が多いことを確認した。

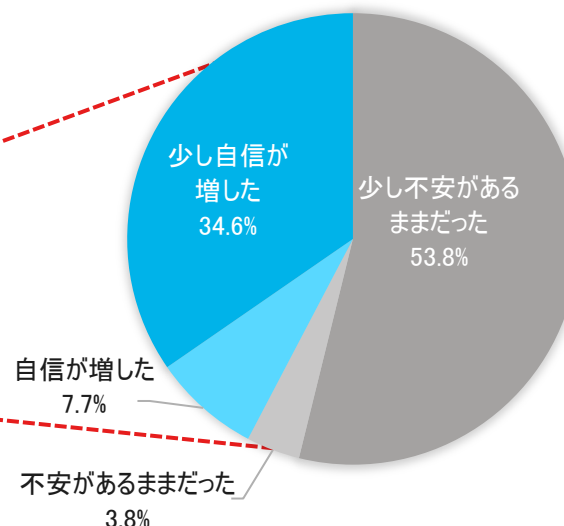
当該参加者のうち、42.3%がAI使用後に「自信が増した」「少し自信が増した」と回答しており、**AIの使用がケアプラン作成の自信につながる効果があったことが確認**された。

AI使用前



普段、作成しているケアプランに自信がありますか？

AI使用後



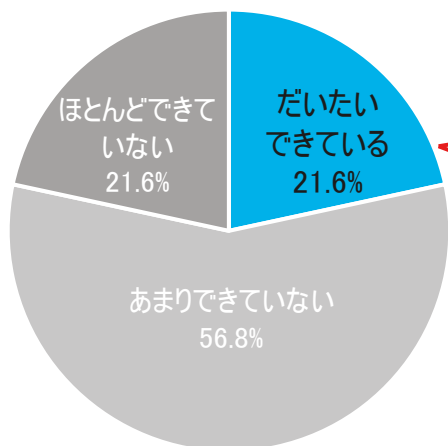
作成しているケアプランが「自立支援・重度化防止」になっているという自信は増しましたか？

3-7 新人・若手の教育について①

新人・若手の教育のための時間の確保ができているかと共に、AIの活用により時間短縮が可能か確認したもの。なお、新人・若手の教育を行う機会がない参加者については集計の対象から除外した。

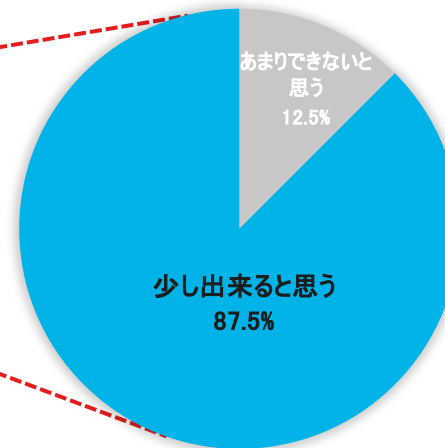
新人・若手の教育のための時間確保が「だいたいできている」と回答した21.6%の参加者のうち、**87.5%の参加者が「AIを利用することで時間短縮が可能」と回答。**

AI使用前



新人・若手のケアマネジャーの育成を行う際に十分に時間を確保できていますか？

AI使用后



新人・若手のケアマネジャーの育成を行う際に、SOINを利用することで時間短縮が可能だと思いますか？

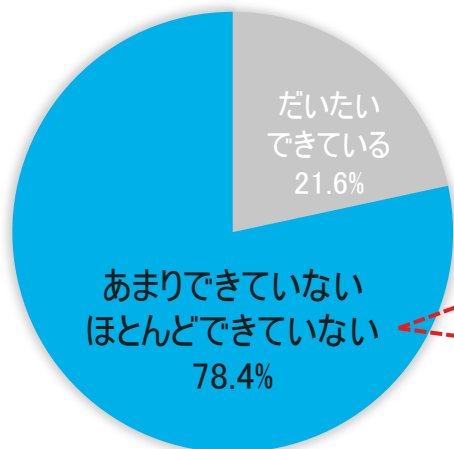
3-7 新人・若手の教育について②

前ページ「3-7 新人・若手の教育について①」と同様の条件での質問。

新人・若手の教育のための時間確保が「ほとんどできていない」「あまりできていない」と回答した78.4%の参加者のうち、**65.5%の参加者が「AIを利用することで時間短縮が可能」と回答。**

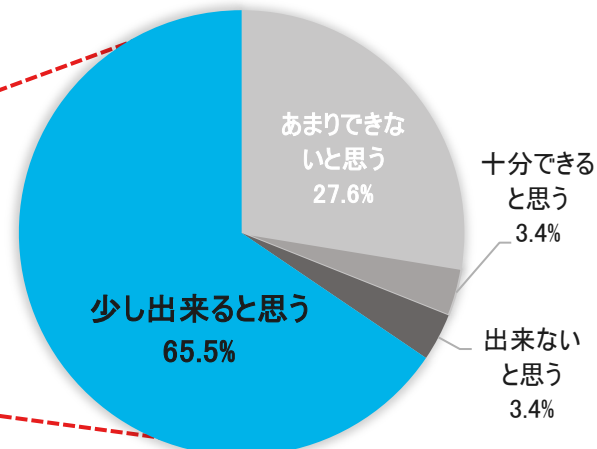
前ページ「3-7 新人・若手の教育について①」の検証結果と合わせると、新人・若手への教育現場における**AIの活用が教育時間短縮に有効**であることが確認できる。

AI使用前



新人・若手のケアマネジャーの育成を行う際に
十分に時間を確保できていますか？

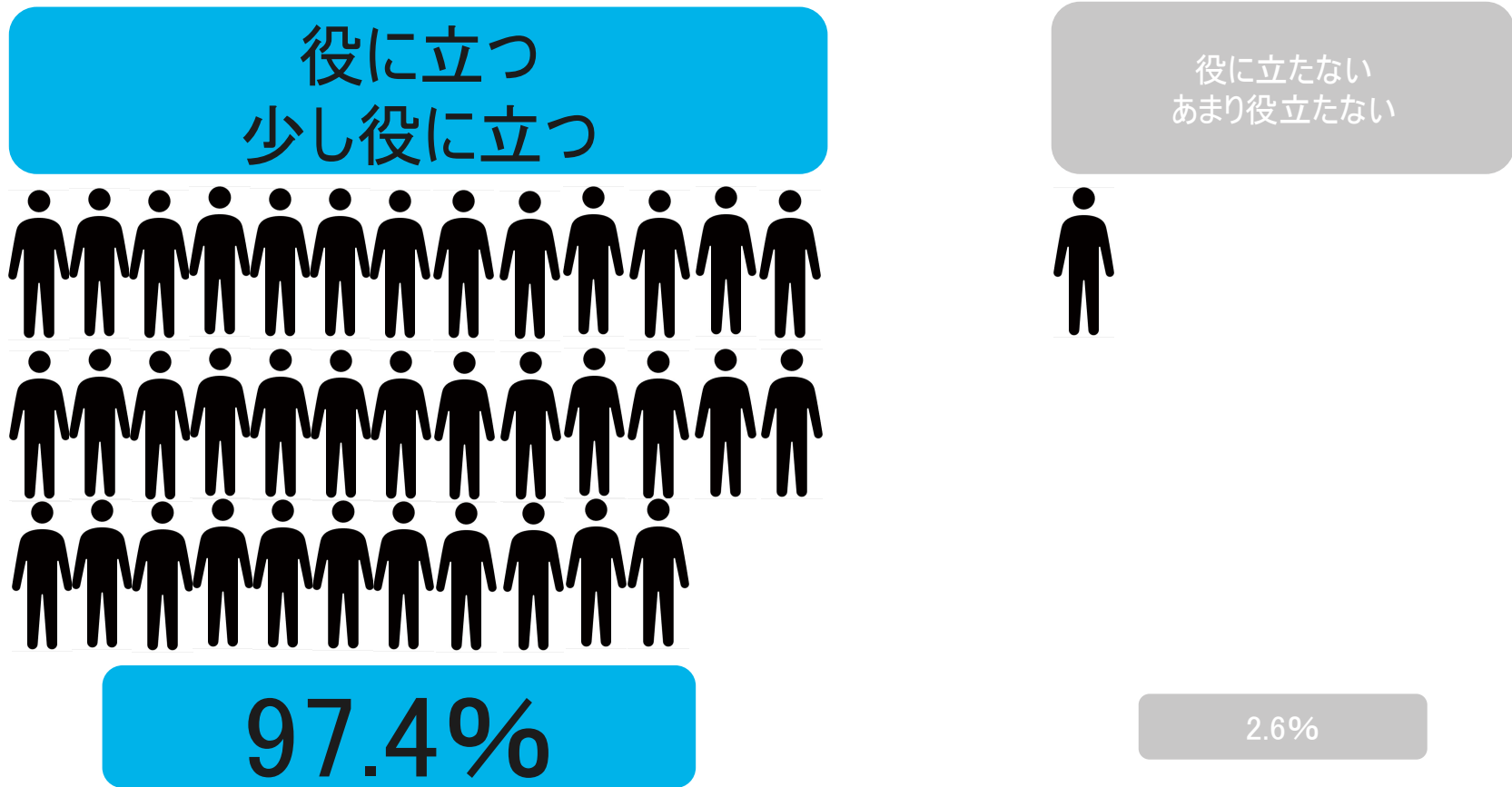
AI使用后



新人・若手のケアマネジャーの育成を行う際に、SOINを利用することで
時間短縮が可能だと思いますか？

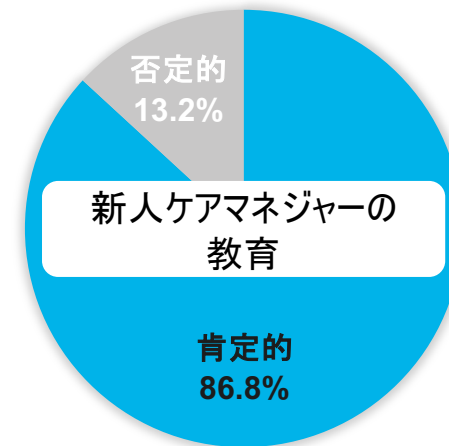
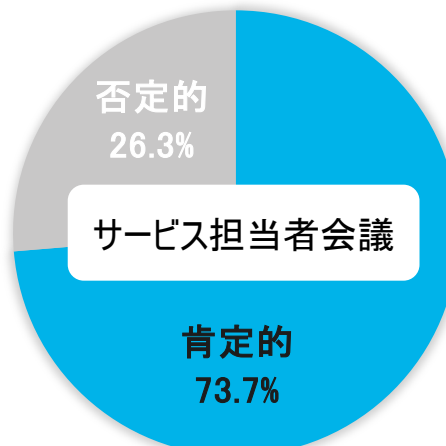
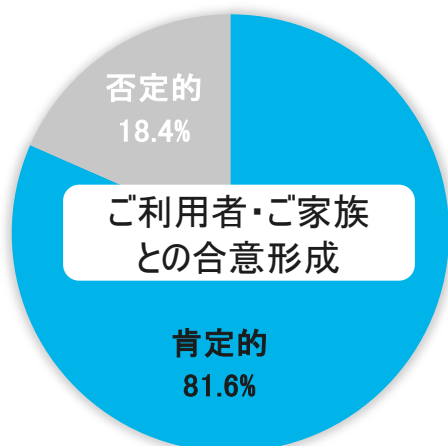
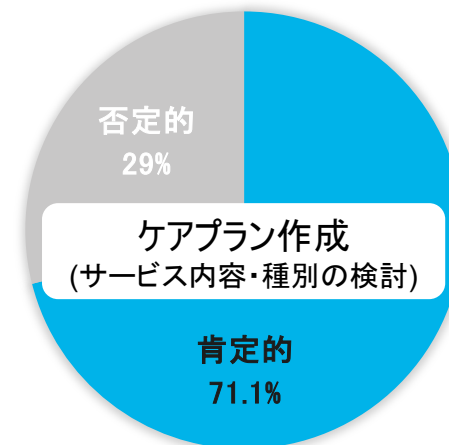
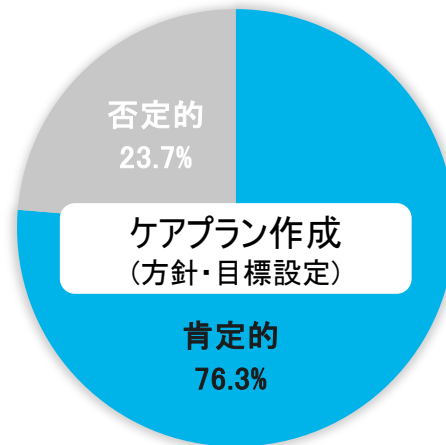
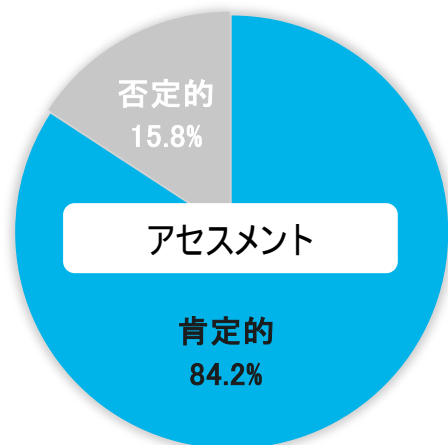
3-8 総合的な効果について①

SOINはケアマネジャーの知識補完に有効か



ケアマネジャーの知識補完についての回答は、ほぼ全ての方が役立つと思う/少し役立つと思うに回答。
ほぼ全てのケアマネジャー有効的に活用できることを確認した。

3-8 総合的な効果について②



4-1) 牧之原市における合同勉強会の取り組み

4-1 牧之原市の合同勉強会(R5年12月5日ケアプランAI作成支援ツールについて)

AIを活用して良かった点

- ・分析内容は参考になった。理解できない部分はケアマネジャー側の勉強不足ではないかと思った。
- ・分析画面のアセスメントの内容を参考にできる。
- ・AIと自身の分析内容が同じ、近かった。(自身プランの確認ができた)
⇒分析内容が違う結果が出てしまった。(別の視点が得られた)
- ・AIの予測について、ケアマネジャーの将来予測に役立った。
- ・自分が思いつかない視点で活用ができる。
- ・サービス担当者会議時にSOINから出てくるワンポイントの情報を共有できた。

AIを活用して気になる点

- ・使用する前に思っていたケアプラン作成AIとは違った。
- ・情報量が多く、分析に時間を要する。
- ・入力する項目が少ない。メモ機能に入力した詳細情報(個人因子・環境因子)が分析に反映されないことが気になる。
- ・項目が広い範囲(《例》認知症⇒実際はアルツハイマー、脳血管性認知症、レビー小体等で対応が違う)で選択ができない。より詳細な情報の入力ができなかった。
- ・精神疾患のケースの人では現状選択項目がないため、使用は難しいと感じた。

業務品質向上と業務効率化への貢献

- ・AIが提案したサービスの根拠を詳しく知りたい。文章で表現するとわかりやすい。
- ・牧之原市の社会資源にあるもので提案してくれるとより参考になると思う。
- ・メモ機能に記載した内容や病歴(疾患部)の情報をAIの結果に反映してほしい。
- ・認定情報だけではなくアセスメント課題分析標準項目の情報が反映されると良い。
- ・ケアプランの目標等になりうる例文が表示されれば使ってみたい。ケアプラン作成に直接活用してみたい。

4-2) 伊豆の国市における活用事例

4-2 伊豆の国市長岡包括支援センターの活用事例

どのようなシーンで活用したか

- ①担当者会議の中での利用者への説明時(予測、Aiの出した見立てなど)
→そこから、セルフケアの話にも展開させた
- ②状態が変化した利用者の状態像を把握後の訪問時にサービス利用の提案する根拠として活用。

AIを使用した後の気づき

- ①自分の見立てと同じだった時には自立支援の方向性が間違えていないと確認ができた。
- ②今までは言葉で将来像の共有をしていた(本人の言葉として)が、AIを利用した事でより具体的な1年後の将来像を利用者や担当者とも話ができて共有できた。

AIを使って良かった点

- ①方向性の確認ができた事で自分のプランへの自信が芽生えた。
- ②将来像の共有は、本人のやる気の源にもなった事とセルフケアも足した事で継続する意欲につながった。

総括及び今後の課題

5-1 本事業の総括

ケアプラン作成支援のためのAIシステムの導入及び活用を促進し、より質の高いケアプランを作成できるケアマネジャーの育成を目指すとともに、ケアマネジメント業務の効率化を図ることを目的として事業を実施。

アンケートを中心に検証した結果、以下のような結果を得ることができた。

業務品質向上と業務効率化への貢献

アセスメント時における「訪問回数」や課題分析における「所要時間」ともに大きな減少（効率化）が見られる結果となったことは特筆すべき結果である。

また、新人や若手ケアマネジャーの育成にかかる時間においても効率化の効果が認められるだけでなく、利用者やその家族、サービス提供事業者への説明に自信が持てるようになった割合が増えたことから、ケアマネジャーの心理的負担軽減につながる事が認められ、結果として離職防止にも寄与することが期待できることから、人材不足や高齢化対策にも効果が期待できる。

適切なケアマネジメント手法の実践に効果的

現時点では適切なケアマネジメント手法を意識したケアマネジメントができていないケアマネジャーが半数を超える中、ほぼ全てのケアマネジャーにとってAIの活用が適切なケアマネジメントを意識したケアプラン作成に効果的であることが示された。

これらはAIがケアマネジャーを効果的に支援し、一人で全ての領域の知見を身につけることが現実的に困難な業務環境下での有用性が示されたと同時に、適切なケアマネジメント手法を土台とした、個別性の高いケアプランの作成を進められると考えられる。

自立支援・重度化防止に有効

アセスメント時に「維持」を意識しているケアマネジャーが多く、もともと高い意識を持って取り組んでいるケアマネジャーにとっても、AIを活用することにより、今までにない気づきや新たな視点が生まれたことが確認できる。

AI(SOIN)の活用が自立支援・重度化防止を意識したケアマネジメントに有効。

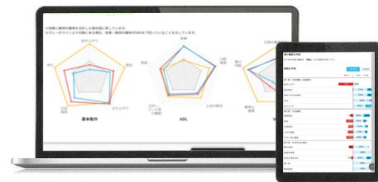
5-2 今後の課題と展望

活用イメージの共有

ケアマネジメント業務におけるAIの活用の必要性を感じる一方で、その具体的な活用方法などがイメージに繋がらないとの意見もあり、そこがAIに対する評価の分かれる一つの要素とも捉えられる傾向が見られた。また、AIの具体的な活用の場面やその場面ごとの活用方法について周知することが重要であるとともに、ケアマネジャーも自身が担当している利用者の状況などに応じた活用方法を試行する必要がある。

DXへの正しい理解と意識改革

- ・ケアマネジャー自身がAIやICTに身近に感じつつある中、それらに「委ねる」という姿勢ではなく、自らが「使いこなす」という立場に立つという、AIやICTとの正しい関わり方を理解することが必要である。



SOIN そわん



活用には、AIやICTと正しい関わり方を

添付資料

AI使用前アンケート

(回答者情報)**回答者年代**

20代	0
30代	5
40代	11
50代	15
60代～	7
	38

ケアマネジャー経験

5年未満	4
5年以上10年未満	5
10年以上15年未満	10
15年以上20年未満	15
20年以上	3
その他	1
	38

主任介護支援専門員の資格

あり	22
なし	16
	38

1.現在のご自身のケアマネジメント業務について、下記の質問にあてはまるものに○をつけてください

1.1ご利用者のADL・心身機能の「悪化のリスク・改善の可能性」を意識したケアマネジメントが十分にできていると思いますか。

できている	9
少しできている	21
あまりできていない	8
できていない	0
	38

1.2ご利用者のADL・心身機能の「維持の可能性」を意識したケアマネジメントが十分にできていると思いますか

できている	15
少しできている	18
あまりできていない	5
できていない	0
	38

1.3ご利用者のADL・心身機能の「自立支援・重度化防止」を意識したケアマネジメントが十分にできていると思いますか。

できている	6
少しできている	26
あまりできていない	6
できていない	0
	38

1.4一昨年厚労省から出されたガイドラインである『適切なケアマネジメント手法』をご存じですか。

よく知っている	6
少し知っている	25
聞いたことある	4
全く知らない	3
	38

1.5ご自身のケアマネジメントは、『適切なケアマネジメント手法』に準じて行われていると思いますか。

できている	2
少しできている	14
あまりできていない	17
できていない	1
未回答	4
	38

2.アセスメント業務について、下記の質問に当てはまるものに○をつけてください。

2.1お一人のご利用者の初回アセスメント(情報収集)に、平均どれくらいご利用者を訪問しますか。

1回	7
2回	26
3回	5
4回以上	0
	38

2.2お一人のご利用者の初回アセスメント(情報収集)のときに、聞きモレや視点不足がありますか？

ある	13
たまにある	18
あまりない	6
ない	1
	38

2.3お一人のご利用者の初回アセスメント(課題分析)に、平均どれくらい時間を要しますか？

1時間未満	8
1時間以上2時間未満	22
2時間以上3時間未満	6
3時間以上	2
	38

3.ケアプラン作成について、下記の質問に当てはまるものを選んでください。

3.1 普段、作成しているケアプランが「自立支援・重度化防止」になっているという自信がありますか。

自信がある	3
少し自信がある	9
少し不安がある	23
不安がある	3
	38

3.2 一年後の状態像の変化について予想し、ケアプラン作成を行っていますか？

予想できている	2
やや予想できている	24
やや予想が難しい	12
予想が難しい	0
	38

3.3 一年後の要介護度の変化について予想し、ケアプラン作成を行っていますか？

予想できている	2
やや予想ができていない	24
やや予想できている	0
やや予想が難しい	12
予想が難しい	0
	38

4.担当者会議やサービスの調整について、下記の質問に当てはまるものを選んでください。

4.1ケアプランの方針・目標・根拠をご利用者・ご家族に説明することに自信がありますか。

自信がある	5
少し自信がある	19
少し不安がある	14
不安がある	0
	38

4.2ケアプランの方針・目標・根拠をご利用者・ご家族に説明するのに、お一人のご利用者当たり何回くらい訪問されますか。

自信がある	7
少し自信がある	15
少し不安がある	16
不安がある	0
	38

4.3ケアプランの方針・目標・根拠をサービス事業者等に説明することに自信がありますか。

1回	30
2回	8
3回	0
4回以上	0
	38

5.新人のケアマネジャー教育について、下記の質問に当てはまるものを選んでください。

5.1 新人・若手のケアマネジャーの育成を行う際に十分に時間を確保できていますか？

十分にできている	1
だいたいできている	8
あまりできていない	21
ほとんどできていない	8
育成をすることがない	0
	38

5.2 新人・若手のケアマネジャーの育成を行う際に効果的に教育を実施できていますか？

十分にできている	1
だいたいできている	10
あまりできていない	20
ほとんどできていない	7
教育をすることがない	0
	38

6.1 AIをケアマネジメントに用いることについて、ご自身のイメージの近いところの当てはまるものを選んでください。

アセスメント

役立つと思う	10
少し役立つと思う	25
あまり役立たないと思う	3
役立たないと思う	0
	38

方針・目標設定

役立つと思う	10
少し役立つと思う	25
あまり役立たないと思う	3
役立たないと思う	0
	38

サービス内容・種別の検討

役立つと思う	8
少し役立つと思う	22
あまり役立たないと思う	8
役立たないと思う	0
	38

サービス担当者会議

役立つと思う	3
少し役立つと思う	20
あまり役立たないと思う	13
役立たないと思う	2
	38

ご利用者・ご家族との合意形成

役立つと思う	7
少し役立つと思う	19
あまり役立たないと思う	8
役立たないと思う	4
	38

新人ケアマネジャーの教育

役立つと思う	11
少し役立つと思う	22
あまり役立たないと思う	2
役立たないと思う	3
	38

ケアマネジャーの知識補完

役立つと思う	14
少し役立つと思う	23
あまり役立たないと思う	1
役立たないと思う	0
	38

6.2 AIに対する印象をご記入ください。（自由記載）

- ・客観的なアドバイス、統計的な根拠を示せるという印象
- ・多量のデータに基づき方針やアドバイスを提案してくれるので助かっている。
- ・他事業所のケアマネにAIの事を知っているか確認をしているが、いまだにAIがケアプランを作ってくれていると思い込んでいる。間違った解釈が多い。
- ・SOINに入力し、サービスを追加したことによる1年後の状態が悪化することもあったので理由がわからず理解するのが難しかったことがあった。ただ、現状のサービスで1年後の予測ができることにより、注意しなければならない点が明確化されたことや本人・家族への説明もやりやすく感じました。
- ・利用者様の介護度、既往歴やADL、IADLの状況や家庭環境、認知度等を入力するとケアプランの2表が出てきて、そこからケアマネが肉付けする感じで利用者様のケアプランが完成するのではないかと思います。入力するだけならば利用者様のサービスで介入できないことが賄えるのではないかと？ 独居や高齢者世帯が多くなりサービスでは賄えない事も多くある。本来ならば家族支援で賄えるところが家族が遠方とか誰もいない方もいるのは事実なのでケアマネが支援しないとその人達の生活がダメになるのではないかと思います。
- ・客観的に見る事が出来るツールとして良いと思う。
- ・使用者(ケアマネジャー)が気が付かない視点でのアセスメント、分析結果を知る機会となり参考になりました。サービス内容の提案等については実際の本人と家族の意向等があり必ずしも合致するものばかりではなかったと感じています。
- ・客観的視点が得られる。根拠を明確にして御家族への説明ができる。
- ・完璧なもの
- ・よくできている
- ・アセスメント、ケアプランに漏れがなくなる。
- ・日頃の業務に加えて、入力する事に手間がかかると感じた
- ・AIの提案を見て自分の思い込みがある事に気付かされたり、違う視点で見ることができると思います。
- ・ケアプラン立案のアドバイスを頂けるのは良い。ケアプランに取り込みがしやすいと尚良い。
- ・入力するアセスメント情報を多くすることで、提案される内容の精度が向上すると思います。
- ・相手にしている方が同じ人間なので、すべてがAIにお任せ出来ない部分があると思います。精神的な部分では、対人間の感情を理解する部分があるかと思っています。ケアプランやアセスメントを行う過程においては、参考になるかと思っています。
- ・意外な結果が出ることもあり、経験だけのプラン作成は不十分な面に気付かされると思う。
- ・自分のケースを入力しても頓珍漢な返答が多くあまり参考にならない事が多いと思う
- ・利用できるものと出来ないものがある。
- ・利用上事業所にお金に係るのでかかるので利用までには時間がかかる。
- ・数多くのデータから多方面の視点で助言してもらえる点は参考になると思います。介護者や他支援者の状況によりサービス支援内容も柔軟に管変えて居なければならぬ点などは個性が強いので反映は難しいかと思っています。
- ・公平で客観的な意見として役立つと思う
- ・現状は、自身のプラン計画との整合性や相違についての参考、再検討につなげる事が出来る。

AI使用後アンケート

1.SOIN利用状況

1. 現時点でご担当しているケースは何件ですか？

20件未満	4
20件以上25件未満	6
25件以上30件未満	4
30件以上35件未満	5
35件以上40未満	5
40件以上45未満	7
45件以上	5

1.1 期間中で、SOINを利用したケースは何件ですか？

7件～10件	2
4件～6件	8
1件～3件	28
	38

1.2どの場面でSOINを使いましたか？(いくつでも)

ケアプラン作成（サービス内容・種別の検討）	22
ケアプラン作成（方針・目標設定）	20
アセスメント	19
ケアマネジャーの知識補完	7
ご利用者・ご家族との合意形成	5
サービス担当者会議	3
新人ケアマネジャーの教育	2
テスト利用	1
お試し	1
使用していません。	1
研修の際のお試し	0
研修時	0
1, AI研修のため 2, 初回サービス開始後のモニタリング時	0
自立支援重度化予防地域ケア個別会議出提出された事例の検討	0

39

2.SOINを利用後、ご自身のケアマネジメント業務について、下記の質問にあてはまるものを選択してください。

2.1ご利用者のADL・心身機能の「悪化の可能性」を意識したケアマネジメント業務に、良い変化があったと思いますか？

変化があった	1
やや変化があった	17
あまり変化がなかった	15
変化がなかった	5
	38

2.2ご利用者のADL・心身機能の「維持の可能性」を意識したケアマネジメント業務に、良い変化があったと思いますか？

変化があった	3
やや変化があった	16
あまり変化がなかった	14
変化がなかった	5
	38

2.3ご利用者のADL・心身機能の「改善の可能性」を意識したケアマネジメント業務に、良い変化があったと思いますか？

変化があった	1
やや変化があった	17
あまり変化がなかった	15
変化がなかった	5
	38

2.4『適切なケアマネジメント手法』に沿ったケアマネジメントをする上で、SOINは、役に立つと思いますか？

役に立つと思う	5
少し役に立つと思う	31
あまり役に立たないと思う	2
役に立たないと思う	0
	38

3.SOINを利用後アセスメント業務について、下記の質問に当てはまるものを選択してください。

3.1ご利用者のアセスメント（情報収集）をするための負担(訪問回数・時間など)は軽減しましたか？

軽減した、又は使いこなせば軽減すると思う	0
やや軽減した、又は使いこなせば、やや軽減すると思う	9
あまり軽減しなかった、又はあまり軽減しないと思う	21
軽減しなかった、又は軽減しないと思う	8
	38

3.3 お一人のご利用者のアセスメント（情報収集）のときに、聞きモレや視点不足は減りましたか？

減った	0
少し減った	17
あまり減らなかった	17
減らなかった	4
	38

3.2お一人のご利用者のアセスメント（情報収集）に、平均どれくらいご利用者を訪問しましたか？

1回	12
2回	22
3回	4
4回以上	0
	38

3.4 お一人のご利用者のアセスメント（課題分析）に、平均どれくらい時間を要しましたか？

1時間未満	16
1時間以上2時間未満	18
2時間以上3時間未満	4
3時間以上	0
	38

3.SOINを利用後アセスメント業務について、下記の質問に当てはまるものを選択してください。

3.5ご利用者のアセスメント(情報収集)のときに、新たな視点や気づきが得られましたか？

得られた	4
少し得られた	27
あまり得られなかった	6
得られなかった	1
	38

3.6ご利用者の課題分析をするときに、SOINの分析・提案は、役に立ちましたか？

役に立った	7
少し役に立った	23
あまり役に立たなかった	7
役に立たなかった	1
	38

3.7 短期目標・長期目標を設定する上で、SOINの分析は、役に立ちましたか？

役に立った	4
少し役に立った	21
あまり役に立たなかった	10
役に立たなかった	3
	38

4.SOINを利用後、ケアプラン作成について、下記の質問に当てはまるものを選択してください。

4.1 作成しているケアプランが「自立支援・重度化防止」になっているという自信は増しましたか？

自信が増した	2
少し自信が増した	18
少し不安があるままだった	17
不安があるままだった	1
	38

4.2 ケアプランを作る際に、「一年後の状態像の変化予測」は、役に立ちましたか？

役に立った	5
少し役に立った	30
あまり役に立たなかった	3
役に立たなかった	0
	38

4.3 SOINの「一年後の状態像の変化予測」は、ケアプランの根拠として活用できましたか？

活用できた	3
少し活用できた	26
あまり活用できなかった	8
活用できなかった	1
	38

4.4 ケアプランを作る際に、「一年後の要介護度の変化予測」は、役に立ちましたか？

役に立った	5
少し役に立った	25
あまり役に立たなかった	6
役に立たなかった	2
	38

4.5 SOINの「一年後の要介護度の変化予測」は、ケアプランの根拠として活用できましたか？

活用できた	2
少し活用できた	24
あまり活用できなかった	11
活用できなかった	1
	38

5.SOINを利用後、ケアプランに位置づけたサービスについて、下記の質問に当てはまるものを選択してください

5.1 SOINを利用したことで、ケアプランに位置づけたサービス種類に変化はありましたか？

サービスの種類が増えた	0
サービスの種類は増えていないが、種類が変わった	5
変化はなかった	33
サービスの種類が減った	0
	38

5.2 SOINを利用したことで、ケアプランに位置づけたサービスの回数に変化はありましたか？

サービスの回数が増えた	1
サービスの種類は増えていないが、種類が変わった	2
変化はなかった	35
サービスの回数が減った	0
	38

6.SOINを利用後、担当者会議やサービスの調整について、下記の質問に当てはまるものを選択してください。

6.1ケアプランの方針・目標・根拠をご利用者・ご家族に説明することに自信ができましたか？

自信が出た	1
少し自信が出た	26
少し不安があるままだっ	11
不安があるままだった	0
	38

6.2ケアプランの方針・目標・根拠をご利用者・ご家族に説明する負担(訪問回数・時間など)に変化はありましたか？

軽減した	0
やや軽減した	8
あまり軽減しなかった	25
軽減しなかった	5
	38

6.3ご利用者やご家族の状況の変化について、あてはまるもの全てにチェックをつけてください。

自信が出た	1
少し自信が出た	26
少し不安があるままだっ	9
不安があるままだった	2
	38

6.4 ケアプランの方針・目標・根拠をサービス事業者等に説明することに自信ができましたか?(複数回答あり)

ご利用者やご家族と、ケアマネジャーの関わり方が変わった	1
ご利用者やご家族から、改善・維持・重度化防止に対する前向きな言動が見られた	7
ご利用者が、ご自分でできることが増えた	3
ご利用者やご家族の、ケアプランへの興味が増した	2
ご利用者が、ご自分でできることが増えた	2
特に変化したことはない	25
	40

7.SOINを利用後、新人のケアマネジャー教育について、下記の質問に当てはまるものを選択してください

7.1 新人・若手のケアマネジャーの育成を行う際に、SOINを利用することで時間短縮が可能だと思いますか？

十分できると思う	1
少し出来ると思う	26
あまりできないと思う	10
出来ないと思う	1
育成をすることがない	0
	38

7.2 新人・若手のケアマネジャーの育成を効果的に行うにあたり、SOINが、有効であると思いますか？

有効である	0
おおむね有効である	30
あまり有効ではない	7
有効ではない	1
育成をすることがない	0
	38

8.AIについて、お答えください。①

8.1 SOINを利用した結果、AIをケアマネジメントに用いることについて、ご自身のイメージの近いところの当てはまるものを選択してください(各場面につき1つ付けてください。)

アセスメント

役立つと思う	4
少し役立つと思う	28
あまり役立たないと思う	4
役立たないと思う	2
	38

ケアプラン作成(方針・目標設定)

役立つと思う	3
少し役立つと思う	26
あまり役立たないと思う	9
役立たないと思う	0
	38

ケアプラン作成(サービス内容・種別の検討)

役立つと思う	5
少し役立つと思う	22
あまり役立たないと思う	10
役立たないと思う	1
	38

サービス担当者会議

役立つと思う	2
少し役立つと思う	26
あまり役立たないと思う	9
役立たないと思う	1
	38

ご利用者・ご家族との合意形成

役立つと思う	4
少し役立つと思う	27
あまり役立たないと思う	6
役立たないと思う	1
	38

新人ケアマネジャーの教育

役立つと思う	6
少し役立つと思う	27
あまり役立たないと思う	3
役立たないと思う	2
	38

ケアマネジャーの知識補完

役立つと思う	9
少し役立つと思う	28
あまり役立たないと思う	1
役立たないと思う	0
	38

8.2 AIに対する印象をご記入ください。(自由記載)

- ・総合事業や地域の居場所の活用を意識しての自立を目指す、目安程度での活用にとどまると思います。
- ・色々なデータから導き出してくれるため、役に立つ場面もある。
- ・認知症・ADL等の項目ごとではなく、認定情報だけではなく、ケアマネのアセスメントした内容までいれてSOINに入れることにより、現実的な分析ができるのではと感じました。
- ・AIがケアプランの1票2票を作ると思っていたが、あくまで材料的な物だが、実際やってみて認定情報等を入れて置き出す際にかなり自分が考えているプランと相違があり、真多メモ部分が活用されなかった。ただアセスメントモレがあった為自分がどこの部分が苦手と言う視点が判明した。使い方がよければ活用の幅が聞くとAIのケアプランを基に担会等で本人や家族、サービス事業者にも根拠立てて活用できるのではないかと思う。
- ・記入の仕方にもよるかもしれないが、的外れな提案もあつたりする。逆に鋭い視点もあつたりして一長一短な印象。
- ・病状やその人の個性が反映されるとケアマネから見てより近い距離の物になると思います。
- ・ケアプラン作成の補助的なものなので、業務負担の軽減にはならない。
- ・自分とは違うAIならではの視点で考える事ができるので新たな気付きがあり今後の業務にも活用できると思いました。
- ・想像していた機能と違った。具体的なケアプランができると思った。
- ・予測等参考になりました。
- ・色々な情報を発信して気がつかない点を教えてくれることは良いです。ただ、情報量が多くてどう活かせばよいか正直戸惑っています。使いこなせなかったといこうことが本音です。
- ・入力する情報が広がらないとAIが提案する内容も薄いものになると思う。
- ・イメージと違っていた。入力する事で、計画書1表2表2表が作成ができてしまうイメージだった。
- ・活用を繰り返す事が重要だと思う
- ・利用ができればケアマネの仕事の時間が短縮できると思います。
- ・経験値(データ)からの多方面の視点の助言は参考になるとは思いますが、コア(特有)なケース事例には効果は難しいかと感じます。
- ・思っていたほど参考にならなかった

その他ご要望・事業に関するご感想について自由に記入してください。(自由記載)

- ・ケアプラン作成が初めてという方にはよいと思う。地域性や個人の価値観によって、AIでの理想のプランと異なることが増えてくると思います。また、要支援以下のほぼ自立の方々に関しては、より市町独自の教室や住民主体の活動を盛り込みたいと思うので、アセスメントまでの活用にとどまると思います。ありがとうございました。
- ・テレワーク・リモートワークをする事業所にとっては、電波が圏外になると使えなくなってしまう事が解題だと感じる。
- ・AIで出されたサービスを提供したいが、事業所が無い等ある為、地域の指定をすることにより、サービスの指定が出れば、とても参考になると思う。
- ・中々AIケアプランはやるまで少し大変かなという思いがあった。
- ・入力したものが、直接ケアプランに落とし込めれば業務時間の短縮に繋がると思う。
- ・AIに情報を打ち込むことがケアマネ業務の負担になっているという意見がありました。
- ・AIと業務効率化は別物と感じた。ケースをより深堀するものであった。
- ・なかなか日常業務に追われてSOINに集中して取り組むことが出来なかったです。活かしきれず申し訳なかったです。
- ・入力する情報を認定調査だけではなく、家族状況などより多くすることで精度の高い提案が可能となると思います
- ・使い慣れていないこともあり、なかなか利用できなかった。きなかった。
- ・もう少しプラン作成時の文言などに反映するものかとか勝手に思っていたため思ったものと違っていた。。
- ・事業所はお金が係ることを気にしています。他の事業所の様子を伺いながら行っていくと思われます。
- ・上記と同様。当事業所では現時点での導入はまだ見送らせていただいています。
- ・もう少し業務改善できるものにして欲しい

利活用セミナー



【利活用セミナーの概要】

元日本介護支援専門員協会会長 鷺見よしみ氏を講師に招き、SOINの活用を促進するための活用事例を含めたセミナーを開催。鷺見よしみ氏が実際に担当された利用者の事例を紹介し、SOINに入力した内容を参加しているケアマネジャーに共有しました。実際にSOINから出てきた分析結果を用いて説明いただいた。各グループに分かれ、持ち寄った事例について支援しようとしたことについてグループ内で共有、検討した。

【日時】

11月2日 牧之原市利活用セミナー実施25名参加

11月29日 伊豆の国市利活用セミナー実施15名参加

【セミナー内容】

- ①株式会社シーディーアイよりAI(SOIN)の紹介
- ②求められるケアマネジメント
- ③持ち寄り事例の概要発表
- ④支援しようとしたことと困難なことから必要な視点を検討する
- ⑤振り返り



「令和5年度ケアマネジメント業務AI導入支援事業業務」の報告会



【報告会の概要】

「令和5年度ケアマネジメント業務AI導入支援事業業務」の報告会を開催。参加自治体のケアマネジャーに向けて、アンケート結果の分析、参加自治体での取り組みやAI活用事例を紹介し、AIを利用することによる効果を報告。

【日時】

令和6年2月21日 牧之原市報告会 10事業所23名参加
令和6年2月26日 伊豆の国市報告会 13事業所21名参加

【アジェンダ】

- 1) 事業概要
- 2) SOIN概要
- 3) アンケート結果分析
- 4-1) 牧之原市における合同勉強会の取り組み
- 4-2) 伊豆の国市長岡包括支援センターの活用事例
- 5) 総括及び今後の課題





あなたの **介護** に、人類の **集合知** を。

【お問合せ先】 050-5491-7123

※ お問い合わせページへは二次元バーコードからアクセスできます。

※ 個別にデモを行うことも可能です。

